

2016年5月9日 Vol.24

大型連休明け株式相場の潮流

先月29日からスタートした大型連休も昨日で終わり、やや休みボケの感じがありますが株式市場は伊勢志摩サミットや参院選挙前の展開に移行します。日銀の追加緩和見送りを材料にした円高の進展を背景に日経平均の大幅調整が見られました。連休前に売った投資家にとっても、調整局面下で虎視眈々と買いタイミングを探る長期スタンスの投資家にとっても売り材料出尽くしとなればどこかで買戻しや積極的な買いが入る展開も考えられます。これ以上の悪材料が出てくれば別ですが、今後は日経平均の下値を探りながら反転上昇に向けたきっかけを待つ投資家が増えてきそうです。

日経平均は昨年6月の高値から2月の安値まで29%の下落となりその後も上げ下げを続けています。上げ下げを繰り返しながらの株式相場は取り組みが難しいけど、よく見ればマザーズ指数のように長期上昇のトレンドが続いている指数もあります。マザーズ指数は直近の安値(664ポイント)から直近の高値(1230ポイント)まで実に85%も上昇。とりわけ過去1年程度の期間に上場したテラスカイ(3915)やJIG-SAW(3914)などのIoT関連銘柄やロゼッタ(6182)などのAI関連銘柄が人気を集めており、これらの人気株に対して出遅れ気味だった銘柄にも人気が高まりつつあります。

全体相場が停滞気味なだけにこうした銘柄の逆行高は目につきます。いずれも将来有望なテーマ銘柄であり、値がさ銘柄であることから7月からのマザーズ指数先物取引開始に向けた前向きな動きと考えられます。但し、マザーズ銘柄のすべてが上昇トレンドにある訳ではなく、人気が偏って二極化相場になってきた結果でもあり、多くの投資家はついていけずに戸惑いが見られる状況になっているように感じられます。それだけに投資すべき銘柄をどのように選定するかが重要になって参ります。人気化が継続すると将来PERなどの評価のモノサシが通用しなくなります。極端な高PER銘柄は本来避けるべきですが、将来性を睨んでのリスクマネーによる取り組みが活発化している状況だと理解したいと思います。

本コラムでは直近1年程度の期間にIPOした銘柄を取り上げながら皆様の投資の参考にすると同時に今後登場するIPO銘柄についてもチェックしていくことを念頭に置いています。残念ながら5月は例年通り新規上場の銘柄はありませんが、そういう局面では直近のIPO銘柄が投資対象として注目されやすいのではないかと考えられます。上げた株は調整局面を迎えますが、上場後の調整局面から反転しつつある銘柄も見出せます。発行済み株式数が限定された新興銘柄の中でも今後の成長が期待されるマザーズ銘柄の中から今後の活躍が期待される銘柄へは皆さんの関心が更に高まるのではないかと見られます。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)